

災害復旧事業等「袋型根固め工法」の活用について

袋型根固め工法は、合成繊維を使用した網状の袋材に玉石等の中詰め材を充填して河川護岸等に用いる工法です。河川護岸や橋脚の根固め工・護床工、洗掘防止、根固めブロックの間詰め工に適用されていますが、災害時の応急復旧への適用や、仮設道路の基盤工、工所用堰堤など仮設構造物への適用も可能です。

袋型根固め工法は、安定した素材および材料から構成される資材としての耐久性、再利用（転用）性、施工性および経済性に優れます。また、中詰め材には現地で発生するコンクリート塊も使用できます。



「袋型根固め工法」の仮設道路への適用

①どんな地盤でも侵入できる仮設道路を構築します。



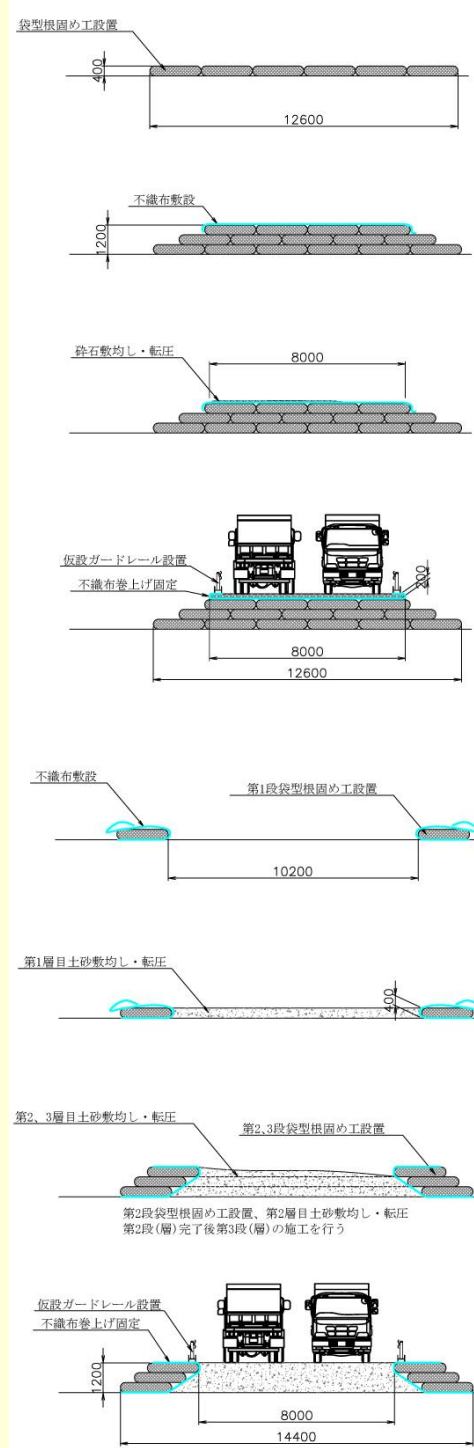
②据付・撤去が何度でもできます。



③腹付け・迂回で進めます。

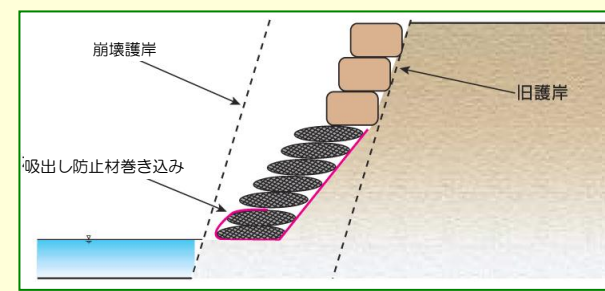
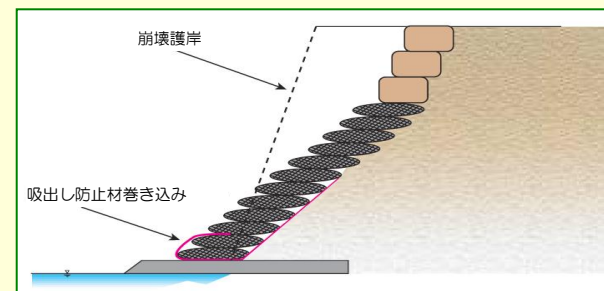


施工手順

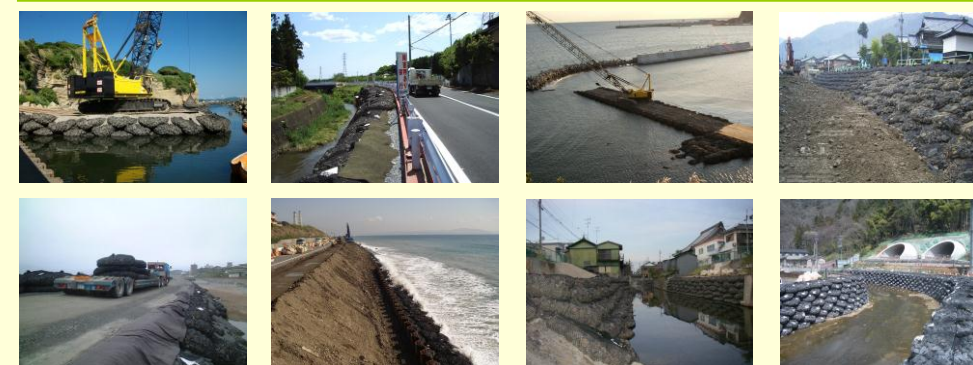


「袋型根固め工法」の応急復旧への適用

中詰め作業・敷設作業とも機械施工が主体となり、専門工が不要であることから、急を要する河川・海岸の護岸崩壊時の緊急仮設復旧に適しています。



施工例



参考価格(材工)

2t用: 17,000 円/袋
4t用: 27,500 円/袋
(※価格は中詰め材を含む)

資料作成: 袋材利用研究会

同研究会は、財団法人土木研究センターおよび、「袋型根固め工法用袋材」を製造・販売する企業5社(キョーワ㈱・大嘉産業㈱・株田中・ナカダ産業㈱・前田工織㈱)で構成され、「袋型根固め工法用袋材」の仮設構造物への適用に関する技術マニュアルの作成を進めています。